令和6年度第1回東近江市総合教育会議 会議録

日 時 令和6年6月25日（火） 午前9時30分 開会

場 所 御園小学校

出席者

市長	小椋 正清	副市長	南川 喜代和
教育長	藤田 善久	教育長職務代理者	青地 弘子
教育委員	山本 一博	教育委員	沖田 行司
教育委員	神寄 由紀美	教育部長	中西 美智代
教育部次長	福井 健次	学校教育課長	北川 守一
秘書課長	伊庭 善一	学校問題対策支援室長	小椋 文子
学校問題対策支援室指導主事	山本 浩司	御園小学校長	熊倉 正志
御園小学校教頭	松居 潤子		
(事務局)			
教育総務課長	池元 貴之	教育総務課長補佐	小辰 あつ子

以上17名

開会

教育部長

皆様、おはようございます。

本日は、大変お忙しい中、令和6年度第1回総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。ありがとうございます。

ただ今から、会議を始めさせていただきます。

本日、司会を務めさせていただきます教育部長の中西です。よろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、はじめに小椋市長から御挨拶をいただきます。

小椋市長よろしくお願いいたします。

市長

皆さん、おはようございます。

今年度、第1回目の総合教育会議です。できるだけ現場で開催しようという思いで進めています。

総合教育会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき開催しており、行政の首長と教育委員の皆様、そして、事務方との意見交換を行う場と認識しています。

教育委員会から文化スポーツ分野を市長部局に移しましたので、思いを教育分野に絞って教育委員さんの力もお借りしたいと思います。

何より、国家の根幹を成す義務教育です。このことを忘れてしまっている人が多いのです。子供たちは、次の世代を担ってくれる宝物だと捉えています。宝物であるから、傷がつかないように大事にしないといけないというのも宝物の在り方ですが私たちは生身の人間です。重要な言葉として、「鍛える」と「我慢」という言葉が、今の子供たちからは抜け落ちてしまっているように思います。義務教育の間というのは、集団教育、集団行動をすることによっ

市長

て、子供同士のトラブルや喧嘩などを経験し、それぞれ、痛みやお互いが傷つくことを体験しながら高度な人格形成をしていくことができるのです。それが宝物を磨く一つの大きな要素ではないかと思っています。

本日は「魅力ある学校づくり」というテーマです。クオリティの高い教育をしていただくことが「魅力ある学校づくり」だと思っておりますのでよろしくお願い致します。

教育部長

ありがとうございました。

続きまして、藤田教育長から御挨拶をいただきます。

藤田教育長よろしくお願い致します。

教育長

おはようございます。

今回の総合教育会議は、昨年行いました不登校支援についての第2弾としての位置づけだと思っています。今回は、児童生徒成長支援室「子どもオアシス」に出向いていただき、具体的な支援、不登校に陥っている子供たちに対する支援についての説明を受けながら、意見交換をしていただきました。

東近江市では、これ以上不登校児童生徒を増やすわけにはいかないという強い思いの中で、今年度、空き教室を利用し、校内教育支援センターをそれぞれの学校に設けました。この校内教育支援センターは、2人体制で支援員を置き、学校へ行きづらいと感じている子供たちを、学校の中でしっかり受け止められる体制としたものです。いろんな悩みを抱えている子供については、スクールカウンセラーを即座に派遣できる体制を整えてきています。

今、学校訪問をしています。それぞれの学校から、「大変ありがたい」という声を多くいただいています。特に教員OBに不登校対応コーディネータを務めていただき、丁寧に学校へ来づらい子供たちに寄り添っていただいています。今まで学校に来られなかった子供たちが、学校に来られるようになった、教室に入りやすくなった子供たちが、校内教育支援センターで気持ちを整えることで教室に入れるようになったという声をたくさんいただいております。まだ、始まって、二箇月半しか経過していませんので、拙速な評価は慎みたいと思っておりますが、着実に実績を積み上げていただいているのではないかと思います。

今日は、御園小学校の校内教育支援センターも少し見学させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

本日の教育総合会議のテーマは、子供たち自身が、どのように行動を起こせるのか、そういう子供たちが成長する手立てを「学活」の中で培っていかうという取組です。少し、分かりにくいかもしれませんが、非常に良い取組だと思っています。今までの支援策というのは、事後の対策だと思っていますが、これは未然防止という対策であり、位置づけが少し違います。そして、子供たちが自然に学校に行きたいと感じられる学校作りするために、子供たち自身が能動的に動けることを目指そうという考え方ですので、是非、御覧いただき、担当の説明をいただいた上で、忌憚のない御意見をいただければありがたいと思います。

教育部長

本日の出席者はお手元の座席表のとおりでございます。

なお、本日は助言者として南川副市長に御出席いただいております。

続きまして、本日の資料について確認させていただきます。

教育総務課長

(資料確認)

教育部長

それでは、協議事項に入らせていただきます。

総合教育会議要綱第4条の規定により、「市長が総合教育会議の議長となる。」となっておりますが、「進行は、議長が指名した者が務めるものとする。」となっておりますので、私が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の総合教育会議は、「魅力ある学校づくり」をテーマにしております。

まず、御園小学校の熊倉校長から話題提供の後、5年2組の授業を見学していただきます。

授業の見学後、再度こちらの部屋に戻って、学校教育課学校問題対策支援室 山本指導主事からパワーポイントで資料の説明をしていただきます。

その後、皆様から御意見、御質問等をいただき、最後にお一人ずつ本日の感想をお願ひしたいと思っております。

限られた時間ではありますが、スムーズに会議が進行できますよう、皆様の御協力をよろしくお願ひします。

では、次第に従い進めさせていただきます。

まずは、御園小学校 熊倉校長から挨拶と話題提供をしていただきます。

御園小学校長

(話題提供)

教育部長

ありがとうございました。

それでは、実際に授業の様子を見学していただきますので、恐れ入りますが移動をお願ひします。

【5年2組の授業見学】

教育部長

それでは続きまして、学校教育課学校問題対策支援室の山本指導主事から、「魅力ある学校づくり」についてパワーポイントで説明していただきます。

学校問題対策
支援室指導主
事

(説明)

教育部長

ここまで、御園小学校から話題提供、5年2組の授業見学、学校問題対策支援室から資料の説明をしていただきましたが、皆様から御意見、御質問等があればよろしくお願ひします。

南川副市長、授業見学の際に私に聞かれていたことを言ってもよろしいですか。

南川副市長

授業をフリーでされていましたが、「これって、シナリオないの。」と質問しました。「この内容で学活をする」と投げかければ、自然とあのような雰囲気でするのかと思ひました。拍手をしていたのは異常に思ひたのですが、ルールはどうなっているのか教育部長に聞きました。

南川副市長

今日は授業見学があるので、シナリオがあり、練習していたのかなと思いました。

学校問題対策
支援室指導主
事

失礼します。

私も拍手をしていることに少し違和感がありましたが、皆さんが授業を見学していただいたことを「お客さんがたくさん来た。」と子供たちは捉えて、その緊張感の中でいい姿を見せないといけないという思いで、自然に温かい拍手をしたのではないかと思います。

石部先生の授業を見ていると、それだけではなく、反対意見が出るようなぶつかり合いの場があつたりします。ぶつかり合いながら、「じゃあ、そのためにはどうしたらいいか。」という形でいろいろと生み出していくのです。今日の場合でいうと、「お面」と「色塗り」のどちらを生かすにはどうしたらいいのかというところから、合体案が出てきたのではないかと思います。

ただ、これは、何もマニュアルがなければできないところがありますので、司会者は、シナリオを必ず持っています。「こういう流れでやっていきます。」というものがあるので、誰でも司会者になれるようにしています。また、子供たちもいきなり議題を教えられて話し合うのではなく、事前に議題を知らされていて、それぞれが考えを持った上で今日に望んでいるので、とても活発的な部分があつたのだと思います。

沖田委員

質問してよろしいでしょうか。

今日、授業見学をした際に、先生の他に女性が一人おられました。どういう立場の方ですか。

学校問題対策
支援室指導主
事

特別支援学級のアシスタントです。学級会は特別支援学級の児童も含めてみんなで取り組むので、その支援としてアシスタントが付いていました。

沖田委員

感想ですが、私は机と椅子の配置を見て非常に驚きました。先生の机と椅子が端にあり、子供たちが先生と対面するのではなく、子供たち同士が対面するようになっている。よく考えれば、江戸時代の寺子屋の配置なのです。

一斉授業をしてから、子供たちを見渡せるように先生がいて、子供たちを向かい合わせて議論させる。そして、先生が時折アドバイスをするという正にあの構図なのです。大まかなシナリオがあつて、子供たちがいろいろな議論をしたときに、先生がすぐにまとめて、引っ張っていくというところに非常に感動しました。

ただ、問題は、今は多様性が大切だと言われている中で、これを一つのまとまった共同性に持っていく方法をどのようにするのか。私は、多様性と言っても、放っておくとバラバラになってしまうと思うのです。多様性をどのように共同性、学級の方向に持って行かれるのか。先生方のシナリオなどがあるのでしょうか。

学校問題対策
支援室指導主
事

授業参観でも前に出ていたように、今日の議題以外にも、学級会では子供たちのたくさんの意見が並びます。では、それをどう選ぶのかというのは、多数決ではなく、いかにみんなが納得する形で選べるかということであり、そのためには、知識・技能が必要なのだと思います。

学校問題対策
支援室指導主
事

今日の授業で、石部先生はたくさん出していました。「これは、こういうことだよね。」「これはどういうこと。」「これは、合体するんだよね。」というように、教師の出方によって、ただ、どれを選ぶというだけではなく、このような合意形成の仕方があるのだということ

を石部先生は、今回、たくさん教えておられたと思います。
教室の前側に「合意形成の仕方」という形でたくさんの方が提示してあり、そのような知識・技能を子供たちは教わりながら、それをどんな場面で生かすのかということを実践の場面で学んでいるというところです。

教育部長

沖田委員から御意見をいただきましたので、皆様からもお一人ずつ御意見をお伺いしようと思

青地教育長職
務代理者

本日はありがとうございました。

子供たちの様子を見て、どの子もみんな参加していたなということが、まず一つ感心しました。拍手という形も一つの意思表示なのかもしれませんが、学級の中で大概、拍手しない子が何人かいるのです。ところが、みんなが同じ方向を向いて、一生懸命に考えていた姿は素晴らしいと思いました。あれは、多分、先生のコントロール力だと思って見ていました。適切なところでアドバイスを入れたり、方向を定めたり、上手く子供たちの気持ちを持っていかれる上手な先生だと思って、感心して見ていました。

一点、質問よろしいですか。今日の授業で、タブレットをどのように使っていたのかなと思いました。画面がついている子とついていない子がいましたので、教えていただけますか。

学校問題対策
支援室指導主
事

バイシンクという方法でして、タブレットでそれぞれが事前に「こんなことをやればいいのか」というものを書き、それを電子黒板に映しておくという形です。それを一つの画面に写し、この友達の内容を見たいと思ったときには、それを拡大して、「友達の考えはこういうことなんだ。」ということを知るためのものですので、自分にとって必要がないと思えば画面を出さず、必要に応じて画面を出すといった使い方です。画面には全員の考えを出しています。

青地教育長職
務代理者

ありがとうございます。

学校の意義は様々な経験ができること。そして、そういう機会と場が与えられること。そこから、自分が選べる選択肢が増える。そのような姿が、今日の特別活動の中で非常に象徴的に出ていたと思います。いい授業を見せていただきました。

ただ、やはり、不登校の話が出ていましたが、学級の中に入れない子供たちが、これから身に付けてほしいと思うのは、集団で考え、集団で行動し、集団でトラブルや摩擦がある中で育ってくるものというのは、言葉ではなく「こういう場面ではどうしたらいいのか」といった折り合いのつけ方があったりとか、塩梅の仕方であったりとか、あるいは、そういうものをどう加減したらいいのかという部分を、体で覚えて学んでいくこと。それが、その子供たちの力になり、将来を生きていく力になるのではなかと

と思います。子供たちみんながそういう中で育ってほしいということを願ってやみません。

教育部長

ありがとうございました。

教育部長

山本委員、お願いします。

山本委員

副市長の質問にあったように、拍手にしても、本当に普段こういうことをしているのかなというのが正直な感想でした。

いつも思うのは、自分の小学生の頃と比較して、先生の言うことを聞いて受けている授業とは全く違いました。そして、先ほどのパワーポイントの説明で、「プレッシャーがあり、それを発達支持的生徒指導が十分にあれば、問題が顕在化しない。」と言われていました。そうすると、市長が言われた「鍛える」や「我慢」、「集団教育行動」というのは、現在の教育ではここが担っているのかと解釈をしたのですがよろしいのでしょうか。しかし、その手法が、果たして効果が上がっているのかどうかと思います。

前回の総合教育会議でも話しましたが、こういう場では「やっております」、「このような結果が得られます」、「できるようになります」、「悪いことが改善します」というような良いところばかりを聞くような気がするのです。

特別活動を中心とした学校作りも、今年初めてやられているのであれば、まだ、現状では何も結果が出ていないのかもしれませんが、2年、3年とやっておられるのなら、改善点などをこの場でもう少し議論することが、本来ではないのかと思います。良いところや新たな取組を聞かせていただくのは、非常に勉強になるのですが、更にそのやり方に対して、どういう問題が発生して、それをどのように改善するというような議論ができると良いのではないかと思います。そして、前のやり方と今のやり方とは全く遜色がなく、こういうことをやっていけば、我慢できる子になるなどといった説明をいただくと理解できるのではないかと思います。

学校現場のことは詳しくは知らないのですが、無責任なことを申し上げるかもしれませんが、これが私の率直な感想です。

教育部長

ありがとうございます。

魅力ある学校づくりの取組は、昨年度から始まりましたので2年目です。今の御意見、御感想に対して、学校問題対策支援室長お願いします。

学校問題対策
支援室長

ありがとうございます。昨年度から、この魅力ある学校作りに取り組んできました。昨年度は学級活動の手法について、教職員と進めてきたところです。全ての学校で実践をしていただきました。言われるように、やはりいくつか改善点もありました。課題とするところ、多くの先生方が悩んでいたところは、なかなか自分の意見が出しにくいという点です。やはり、たくさんの集団の中で、自分の意見が出せない子がいるということも、多くの先生方が悩んでおられました。そういう意味では、今日の授業見学では、小グループでの話し合いをさせていましたが、そういうことを取り入れると、みんなの意見が出しやすくなるのかなと思いました。こういった研修会を何回も重ねる中で、先生たちの悩みも聞かせていただいた上で、改善策をみんな考えて進めてきたところです。

御園小学校のこの現状が、今言われた成果の全てだと思うのです。先ほど、スライド中で、NHKの「おはよう関西」のところで出てきましたが、当時、御園小学校にいろいろ課題があったところから、特別活動の取組をしようということで、あのような「ニコニコ集会」になったというのが全ての成果だと思います。

学校問題対策
支援室長

多様性など、いろいろな子供たちがいる中で、やはり自分の居場所があるということは、力となって頑張る意欲になっているのではないかと思います。先ほど見ていただいた「せせらぎルーム」の子供も、自分の居場所があるところから頑張る気持ちが出てきたようで、これだけ学校に来られるようになったのだと感じています。
課題もある中、改良しながら取り組んでいるところです。

教育部長

ありがとうございます。
今回、初めて総合教育会議に出席していただきました神寄委員、今日の御感想はいかがですか。

神寄委員

今回、5年2組の授業を見させていただき、とても活発に発言などをされていて驚きました。これだけ知らない大人がいる中で、あまり物怖じすることがなく、それこそシナリオがあるのではないかとというぐらい、クラスの雰囲気がとても活発な感じに受け取れました。

先生が指導される中、活発に意見が飛び合ういいクラスだと思いましたし、上手く誘導されているのだと思いました。

このことと関係するのかは分かりませんが、冒頭で市長が言われていた、「鍛える」や「我慢する」といったことも、私自身思うところがあり、例えば、自分が小学生や中学生の時に経験したいろいろな出来事について考えてみると、今の子供たちは、あまりそういう力がないのではないかと感じます。

先日、雨の日に学校に送ることがありました。いつもであれば、小学校は集団登校なので、班長だからということもあり、レインコートを着て登校するのですが、結局、多くの保護者が「学校まで送ります。」となり、集団登校する子供が数人しか残りませんでした。その中に低学年の子が残っていたので、その保護者へ確認し、何人か一緒に車で学校へ送りました。

もちろん、雨の日のような危ない日や変質者などの心配もあるので送り迎えが悪いわけではないのですが、集団生活の中で、ある程度危険でない状況であれば、「集団登校をしよう。」と、自分も子供たちに言えるようになればいいなと、市長の話を聞いて考えていきたいと思いました。しかし、今話したように周りに流されているということもあるので、いろいろな場を体験させていただきながら自分のことにもつなげていければいいなと思いました。

教育部長

ありがとうございました。
今の御意見を聞いて、学校教育課長お願いします。

学校教育課長

送り迎えについては、教育部長が議会でも答弁をされました。

確かに今は子供が中心となっている状況が見受けられるところがあり、子供が大人になって必ず直面する課題に対して、大人が子供の目の前のハードルを下げる傾向があるというのは事実です。学校では、自分たちで考えて、どうしていったらいいのかということ、教員がファシリテーターとなって子供たちが答えを出し、そして、そこへ向かっていくような教育活動を御園小学校中心に実践してもらっています。そのような中で、御園小学校は4月1日の大変忙しい時に、1年生、2年生、3年生は「こういう子供を育てよう」、そして「6年間通してこうしよう」という縦のつながりを大切にする会議を持たれていることに私は非

学校教育課長	常に感動しました。このように、4月1日に教員が一丸となり、「こういう子どもを育てていこう」と話し合えるような学校を作っていければ良いと思います。
神寄委員	先生同士のコミュニケーションや研修をたくさんされていると感じましたが、逆に、授業の進め方などの相談ではなく、先生自身が抱えている仕事上での心理的な悩み、例えば生徒から受けた言葉や指導上での出来事についての悩みを相談できる場はあるのですか。
御園小学校長	<p>少し話がずれるかもしれませんが、現場を預らせていただいている立場として、自分の意見を言わせていただきます。先ほども「鍛える」という言葉が出ていました。私も子供たちを鍛えたい、光らせたいという思いはずっと自分自身の中では持っていました。今、子供たちを、三十数年、預らせてもらう中で、鍛えることも非常に大事ですが、もう一つ大事だと考えるのは「期待すること」です。教師は、子供たちへ夢を寄せることを失ってはならないと思っています。「期待すること」つまり、子供たちへの信頼感が、子供たちを育てるためには必要ではないかと思っています。「子供たちにこんなふうに育って欲しい」ということを、教師がどのように思うかということです。先ほど、先生方の悩みということがありましたが、我々もそこへ教師を昇華していく。こんなことを言われたけれど、こんな問題はあるのだけれど、こんなふうになってほしいという子供像を持ちながら、そして、こういう姿に育てていくという子供に期待する。そこは、自分のメンタリティを変えていく大事なものではないかと思っています。</p> <p>それから、課題のことがありました。特別活動を進める中で何が課題なのか。10年前、私が御園小学校に教頭として赴任した時、子供たちに対して私が感じていたことは、子供たちが自分の生活、そして、仲間に諦めを感じていることでした。当時は「どうせ俺なんて」、何をやっても「どうせ俺が悪いんやろ」というのが御園小学校の子供たちの口癖でした。それを、この集団作りを通じて、子供たちに役割を与え、機会を持たせて、期待をし、そして、学級集団作りを行っていくことによって、今、見ていただいたように、子供たちが、自分たちでより良くしていこうという、こんな学校だから駄目だという諦めではなく、自分たちが頑張っていくんだという期待に変わっていきました。</p> <p>ただ、一つ我々が検証できていないことの課題としては学力なのです。このことが、学力に結びついているのかということが、実は検証ができていないところです。学級集団としては良くなり、みんなが仲良くなったように感じ、互いに信頼関係ができた。しかし、学校として一番大事なことの一つである学力にそれが結びついているのかというところの検証ができていないところです。子供たちの発達にあわせた学力に関して、子供たちの学習集団と学力の関係などをしっかりと精査しながら、こういう学級集団を作れば、このように学力が伸びるという検証をきちんとすることで、課題解決に結びついていくのではないかと思います。</p> <p>それから、拍手についての御意見ですが、拍手は、我々の中では、称賛するものだというイメージがあり、反対の意見を言っているのに拍手をしていることに違和感があるという御意見でした。子供たちの中では、ドジャーズの大谷選手たちが喜びを表すポーズをするように、クラスの一体感を生むためのアクションの一つではないかと思っています。自分たちが意見を言えたとき、自分たちが課題解決できたときにアクションを起こす。そして、みんなで一体感を持つ。そのように喜びを共有し合うことを御園小学校では非常に大事にしています。</p>

御園小学校長

だから、5年2組は、自分たちが良かったときやいろいろ話し合えたときには、あのよう
に拍手をすることで一体感を生むイメージを持っていて、それが、自分たちの喜びなどの意思
表示をするアクションではないかと思います。

それから、多様性の時代から共同性をどう導くかという御質問でした。

我々も、こちらの意見が良いのか、あちらの意見が駄目なのかを討論をさせるのではなく、
5年2組の子供たちが何を考えていたのかというと、それぞれの意見の改善策を考えていた
のです。どちらかが良い悪いというわけではなく、こちらの悪いところがあれば、このよう
に改善できるのではないかということを考えていました。それぞれの多様な意見の中で、そ
れぞれを戦わせるのではなく、それぞれの改善策を考えていくことによって、お互いの意見
を擦り合わせていく作業が共同性を生んでいくことの一つだと思います。

教育部長

ありがとうございます。

それでは、南川副市長からお願いします。

南川副市長

40年間、スポーツ少年団で子供を指導している立場からすると、授業見学した5年生は、
いろんなことを考えて、自分たちで組み立てる力が付いてきているなどと思いました。私のと
ころのスポーツ少年団でも、5年生と6年生には、自分たちでリレーの練習や幅跳びの練習
をするように声を掛けるだけで、あとはその子たちが考えて練習をします。しかし、3年生、
4年生は、一からルールを教えないといけません。そのことを学校に当てはめると、1年生
から4年生については、先生からきちんと基本の「き」を教えてもらって、初めて5年生、
6年生で考える力が付くのではないかというのが、スポーツ少年団の経験を踏まえての私の
感想です。5年生、6年生になったときに考える力を付けるための教育をしていただきたい
と思います。

教育部長

ありがとうございました。

それでは、まとめに入りたいと思います。市長から一言お願いします。

市長

校長のしっかりした説明のおかげで「魅力ある学校づくり」について理解できましたし、
それはそれで素晴らしいと思います。

ただ、先ほどのスライドの中でありましたが、居場所づくり、絆づくりで魅力ある学校づ
くりをしようというのは、先生が作っているカリキュラムですよね。問題は、大人の価値観
や判断で、子供たちが居場所として認めるのか、居心地のいい場所としての価値判断を大人
がすることの危険性だと思います。いろいろな子がいるのです。居場所というのは、その子
にとっての話であって、野原で寝転んでいることが好きな子もいれば、快適な部屋に
いることが好きな子もいます。また、人生では、居づらくても我慢してそこで存在しなければなら
ないことが多いのです。特に社会に出ると、厳しい中で社会的に判断し、給料を得るために
嫌なことでもやらなければいけない。そのような世の中で幼児期からその子の居場所づ
くりを学校がやるのが正しいのかどうか、私はずっと疑問に感じています。

しかし、居場所をつくるために先生は、子供たちの個性をきちんと見て、気持ちの上でフ
ォローしておられる。本当に大変な仕事だと思いました。先生の難しさはそこにあるのだと
思います。人格と人格がぶつかり合うことで子供は成長します。人格をさらけ出して、相手

市長

もさらけ出して、そのぶつかり合いで理解が生まれるのです。

今日の先生は非常に優秀だと思いました。あのような先生に任せていれば、上手く学級運営ができるのだと思いますし、きちんと物事を考えて、言うべきことを言える子供が育つのだと感じました。

今日は、私も久しぶりに現場を見せていただいて、体感的に勉強になりました。ありがとうございました。

教育部長

教育長から一言お願いします。

教育長

今日はありがとうございました。冒頭の挨拶の中で、授業を見ていただいても分かりにくいかもと話をさせていただいたのですが、分かりにくくて良かったのではないかと思います。

皆さんから、たくさんの御意見をいただき、それに対するコメントも教員や校長からいただき、非常に良い話が出たのではないかと思います。私は、これまで、不登校やいじめの事象が出てから解決するというのではなく、未然防止をするにはどうすれば良いのかという話をずっとしていましたが、「まずは、これだろう」と教員側からの提案で取り組むことにしました。確かに、市長が言われるように、言葉だけを捉えればいろんな思いがあるかも知りませんが、最終的な考え方というのは、子供たち自身が、自分の考え方をきちんと持つ、又はそういう力を育てるということだと思っています。そういう力を持った上で、社会に出てほしいと思っております。少なくとも、そういう力がないことには、社会人になったときに困ってしまうのだらうなと思っています。

今回、校内教育支援センターも見させていただきましたが、様々な要因が複雑に絡んで不登校が生まれています。不登校の中にいろいろなカテゴリーが入りますので、それを全部うまく調整しながら子供たちの足が学校へ向くようにということで、校長も言っておりましたが、きちんと子供の様子を見ながら、距離感を持ちながら対応していただいています。

校内教育支援センターを設けたことにより学校に来られなかった子が来られるようになり、そこでの支援によって校舎の中を歩けるようになったという話も聞きました。そういう形で徐々に広がってきているのだと思います。そして、それがいずれ、自分の教室へ行けるタイミングが生まれてくるのではないかと期待します。また、教室にいる子供たちの中にも、登校したときに居づらいつと感じることがあれば、支援センターで気持ちを整理し、もう一度自分の教室へ戻っていくための場所になればいいなと思っています。そういったことがつながっていけばいいなと思います。

今、沖田先生の本の読ませていただいています。先ほども寺子屋の話が出てきましたが、寺子屋の机の配置の話だとか学びについての話、競争するのではなく、それぞれの子供たちの能力に合わせた形の指導があり、子供たちはそれぞれの中で学んでいくという話が書かれています。今の取組と随分通じる話があると感じました。

とにかく、事後ではなく未然に防止する対応として、今回の授業を見ていただいたということです。そんな簡単にみんなにそんな力が備わっていじめがなくなるとか、不登校がなくなるとかという話ではないと思っております。しかし、やはり目指すべきは未然防止だと考えています。いろんな御意見をいただきながら、精一杯やっていきたいと思っております。本日はありがとうございました。

教育部長

ありがとうございました。今回の「魅力ある学校づくりの推進」というのは、教育委員会の重点施策のど真ん中に掲げている目標ですので議題に取り上げさせていただきました。皆さんから御意見をいただけて本当に良かったと思います。始めて2年目ですので、本日皆さんからいただいた御意見等を参考にしながら、今後の取組につなげていきたいと思ひます。

それでは、以上をもちまして、令和6年度第1回総合教育会議を閉会いたします。熱心に御議論いただきありがとうございました。

会議終了

午前 11 時 35 分